おごせ教育 Pick up

越生小学校

5月25日（土）、五月晴れの中、運動会が行われました。『心を一つに勝利をつかめ！！』のスローガンのもと、“熱血の赤”と“挑戦の青”の2色に分かれて行いました。児童は、これまでの練習の成果を十分に発揮し、一生懸命に演技や競技に取り組んでいました。

梅園小学校

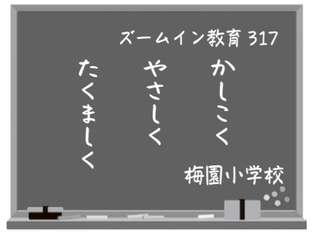
5月25日（土）に春季運動会を開催しました。今年のスローガンは、「協力・全力・集中し、白熱バトルで高め合え！」でした。どの種目も全力を出し切り、協力して心に残る運動会にすることができました。

越生中学校

5月18日(土)に第78回体育祭を開催しました。「一色一彩　～絆で青春を色彩どれ～」をスローガンに掲げ、3年生が1・2年生を牽引し、素晴らしい熱戦が繰り広げられました。

おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。



梅園小学校では、学校教育目標として「かしこく　やさしく　たくましく」を掲げ、全職員一丸となり、教育活動を進めております。

「かしこく」＝学力の向上と自立する力の育成

1 主体的・対話的で深い学びを実現する問題解決型学習、個の学びの充実（一人一実験等）
2 体験的な学びや本物と出会う学習機会の確保・充実
3 全ての児童の学びを保障する授業、安心して学べる学習環境づくり（ペア、グループ等）
4 学ぶための基礎・基本の力の育成及び家庭学習の習慣化
5 グローバル化に対応した外国語教育の充実

「やさしく」＝豊かな心の育成

1 児童の思いを生かした特別活動の充実
2 インクルーシブ教育を中心とした学習環境づくり
3 心を豊かにする読書活動の推進
4 教科・領域を通して取り組む、実践的な道徳教育
5 豊かな感性を育てる音楽活動
6 「あいさつ・あしもと・あとしまつ」を意識した基本的生活習慣の確立

「たくましく」＝たくましい心とからだの育成

1 運動の量と質を確保した体育授業の推進
2 委員会活動や異年齢集団を生かした運動習慣の確立
3 危険予知・回避能力を高める安全教育
4 給食室を活用した食育指導の充実
5 健康教育の推進

本校は今年、創立百五十一年目になります。これまでの伝統を大切にしながら、地域・家庭と連携を図り、子供達が安心して楽しく通える学校づくりを行ってまいります。

縦割り班で「なかよし遠足」にいきました。これからの活動も楽しみです。

越生浪漫 No.185

渋沢平九郎百五十七回忌
「渋沢平九郎昌忠戦闘之図」

慶応4年（1868）5月23日（新暦7月12日）、飯能戦争の敗残兵（渋沢平九郎）が、黒山村（大字黒山）で新政府の斥候隊に遭遇し、奮闘後自刃しました。負傷兵の治療に当った安戸村（現東秩父村）の医師宮崎通泰は、彼らが対峙した兵士の勇敢な最期を聴き、兵士が持っていた辞世の句と詩を書き添えた絵を描きました。この絵は畠山村（現深谷市）の丸橋氏に伝わり、明治23年（1890）に平九郎の兄尾高惇忠が知ることとなり、惇忠は絵を借受けて題名を付け、一文を寄せました。

渋沢平九郎（渋沢栄一の見立養子、旧姓：尾高）

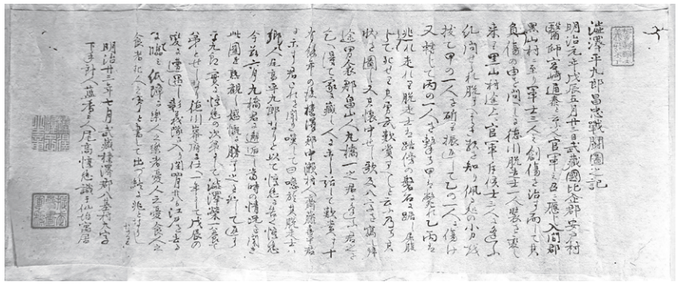
①戦闘図

渋沢平九郎昌忠戦闘之図
昌忠時年二十有二
　惜しまるるときちりてこそ
世の中の人もひとなれ花もはな
なれ
　夏日夕陽　臨渓得氷
　いたつらに身はくたさしな
たらちねの国のためにと生き
にしものを

②戦闘図之記

［印］／渋沢平九郎昌忠戦闘図之記／明治元年戊辰五月二十三日、武蔵国比企郡安戸村医師宮崎通泰と云ふ人、官軍之召ニ応じ入間郡黒山村ニ至り、軍士三人之創傷を治す。而して其負傷の由を問へしに、徳川脱走士一人装を変し来り、黒山村途上ニ官軍斥候士三人に逢ふ。糺問せられ脱すへからさるを知り、佩る処の小刀を抜て甲の一人を斫り、振返して乙の一人に傷け、又転じて丙の一人を撃ち、甲は斃れ、乙丙は逃れ走れり。脱走士は路傍の磐石に踞し、屠腹して死せり。其勇武歎賞すへしと云ふ。乃ち其状を図し又其懐中せし歌及八字を写し、帰途男衾郡畠山人丸橋一之君に逢ふ。君之を乞へ得て家に蔵し人に示し話して歎賞す。十有余年の後、榛沢郡中瀬村人斉藤喜平君に示す。君これを聞き嘆して曰、噫於其脱走士ハ郷人尾高平九郎なりと、以て惇忠に告ぐ。惇忠今茲六月丸橋君に邂逅し、当時の情況を聞き此図を熟観し感慨に勝す。之を記して返す。平九郎実に惇忠の次弟にして渋沢栄一養て弟とせしなり。徳川幕府に仕へ一年にして戊辰の変に遭遇し、彰義隊に入り、閏四月二十八日江戸を去るに臨ミ、紙障に楽人之楽者憂人之憂食人之食者死人之事と書して出づ。終に兆となりしなり／明治二十三年七月武蔵榛沢郡八基村大字下手計人藍香主人尾高惇忠識于仙怡寓居／［印］

①宮崎通泰「渋沢平九郎昌忠戦闘之図」（丸橋忠之氏所蔵）本紙外寸：21cm×18cm

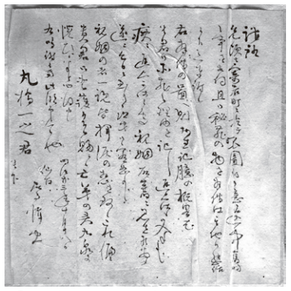


②尾高惇忠「渋沢平九郎昌忠戦闘図之記」（丸橋忠之氏所蔵）

③尾高惇忠礼状

謹啓／先頃は寄居町に於いて図らずも御意を得、取込み中、旧時の事を相伺い、且つ御秘蔵の物を拝借仕り、その他御懇話下さり、また謝し奉り候。右拝借の図は則ち拙生記臆の概略、尤も貴君御所蔵の理由を記し返上仕り候。御入手下さるべく候。疾に返上仕るべきのところ、親姻故旧に見せ候ため、遂に今日に到り候次第御宥恕下さるべく候。親姻の者一覧皆揮涙の想を致しこれ偏に貴君御愛護下さり候賜に候。亡弟の霊九泉に悦び候らわんと心得申し候。右鳴謝かたがた此段申し上げ候也／明治二十三年十月十八日
仙台　尾高惇忠／丸橋一之君
机下

※新字体に改め、句読点を補った。



③尾高惇忠礼状（丸橋忠之氏所蔵）